【別紙様式５－１】

小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業実施報告書

（研究指定校用）

研究指定校名	北海道栗山高等学校	栗山町立栗山中学校	栗山町立栗山小学校 栗山町立角田小学校 栗山町立継立小学校

１　研究テーマ

小中高１２年間を見通したキャリア教育の体系化
～「くりやま塾」による、ふるさとを大切に思い、地域の未来を担う人材の育成を目指して～

２　研究の目的

キャリア教育の実践において、地域との関わりを見直すことにより、地域に関心を持ち、将来、地域を支える人材として活躍できる生徒を育成する

３　研究内容と経過

「地域ダイスキ！プロジェクト」について

○　キャリア教育全体計画の策定
・研究主体校が集まった会議を複数回開催し、キャリア教育分析シートを通して、今までの取組を分析し、小中高を通して育成すべき能力の明確化を図ったキャリア全体計画を作成した。

○　地域の特性や教育資源を生かした取組
・今年度の会議の中で、小学校、中学校、高校との連携した取組について、意見交換を行った。今年度は児童生徒が交流する取組には至らなかったが、高校が行う「くりやま塾」の講演会に小中の教員が参加するなどして、次年度以降の連携の基盤づくりになった。

○　講演会の実施（3月 23 日）
・地域への理解をより深めるための講演会「くりやま塾」を実施した。

○　キャリアノートの作成
・高校が大枠を決め、小中学校と 12 年間を継続して使えるものを作成している。また、他の市町から栗山高校へ進学してきた生徒にも使える工夫をとの意見も地域未来づくり会議の委員から出され検討している。

「子どもダイスキ！プロジェクト」について

その他の取組

○　子どもダイスキプロジェクトについては、座談会という形ではなく、家庭科の授業の中の「保育実習」という取組の中で、栗山町いちい保育園の園長からの話を聞くとともに、その後園児と一緒に遊ぶ活動を行った。

４　研究の成果

(1) 実践による効果

ア　児童・生徒への効果

・「子どもダイスキプロジェクト」の一環として行った「保育実習」の中で、生徒が直接、小学校にあがる前の子どもたちに触れ合うことで、子どもへの接し方を学び、子どもに対する愛情を育むことができた。

イ　教員への効果

・本事業の取組を通して、高校のキャリア教育を小学校、中学校から連続性のあるものとして捉え直し、進路指導だけでなく、地域の教育資源を活用し生徒のキャリア発達に関わる諸能力を伸ばそうという意識に変わりつつある。

ウ　保護者及び地域への効果

・本事業の趣旨や取組内容を積極的に学校ホームページ等で発信してきたことで、保護者や地域住民から生徒に地域をより理解してもらい地域活性化に協力してほしいとの期待が高まった。

(2) 研究の成果と今後の課題

ア　研究の成果

「地域ダイスキ！プロジェクト」の取組

○　全体計画の策定

・全体計画を作成することで、育成すべきキャリア発達に関わる諸能力を明確にすることができ各学校での取組とのつながりを意識して指導していこうとする教員側の意識が高まった。

○　キャリアノートの作成

・次年度から生徒の振り返りを重視したキャリアノートを継続的に使うことで、生徒のキャリア発達に関わる諸能力を効果的に育成できると考えている。

○　くりやま塾による講演会

・地域人材を活用した講演会を通して、生徒は自分たちの地域をより深く知り、地域貢献に取り組もうとうする意識が高まった。

「子どもダイスキ！プロジェクト」の取組

その他の取組

○　「子どもダイスキ！プロジェクト」と関連した保育実習の実施

・高校生が保育園で実際に小さな子どもたちと直接触れ合い、一緒に遊ぶ体験的な活動は、生徒に子どもを育てることの楽しさや大変さを考えさせる上で、非常に効果的な活動である。今後は、家庭や子育てに関する座談会へとつなげられるよう工夫・改善を検討する。

イ　今後の課題

「地域ダイスキ！プロジェクト」の取組

○　キャリア全体計画

・作成したキャリア教育全体計画を意識し、それぞれの学校での教育活動を進めていくことが必要である。

○　キャリアノート

・実際に活用していく中で、年複数回程度小中高の教員が改善に向けての検討を進めていく必要がある。

「子どもダイスキ！プロジェクト」の取組

○　座談会の実施

・高校生が家庭や子育てに真剣に考えられるよう、実施時期や内容について具体的な検討を行い、協力していただく方を募る必要がある。

その他の取組

○　くりやま塾の開催

・次年度は、計画的に複数回実施し、高校生だけなく小中学生や地域の方々も参加できる講演会に工夫していくことが課題である。

・小中高が連携して行うキャリア体験発表会の時期や開催方法について、具体的な検討に入り、地域企業にも協力していいただく報告会になるよう進めていくことが課題である。

補助資料

［研究内容］保育実習の実施

［１年１組　室内での園児との遊び］

［１年２組　屋外での園児との遊び］

［実 施 日］

平成27年10月26日（1年1組）、10月29日（1年2組）

［実施時間］

8:45～10：00

［実施場所］

栗山町いちい保育園

［運営者又は講師等］

栗山町いちい保育園　園長　福士　由香里
栗山高校家庭科教諭　川上　美知代

［参 加 者］

１年生徒全員７６名（栗山高校）

［内　　容］

・保育園の園長から、園児の接し方や留意事項について指導を受ける。
・高校生が小グループに分かれて、園児に対して楽器の演奏や劇などの出し物を紹介する。
・園児と室内又は屋外で一緒に遊ぶ。
・保育園の先生と高校生が感想や意見交換を行い、体験した感想や園児への接し方、子どもに対する気持ちなどを振り返る。

［そ の 他］

・生徒は子どもと触れ合い、関わることを通じて保育への関心を高めている。